

今冬のインフルエンザウイルス 感染症流行に備えて ～子どもたちの流行をいかに抑えるか～

2026年7月14日

東京都医師会 疾病対策担当理事

首里 京子



公益社団法人
東京都医師会

小児のインフルエンザ感染症の現状

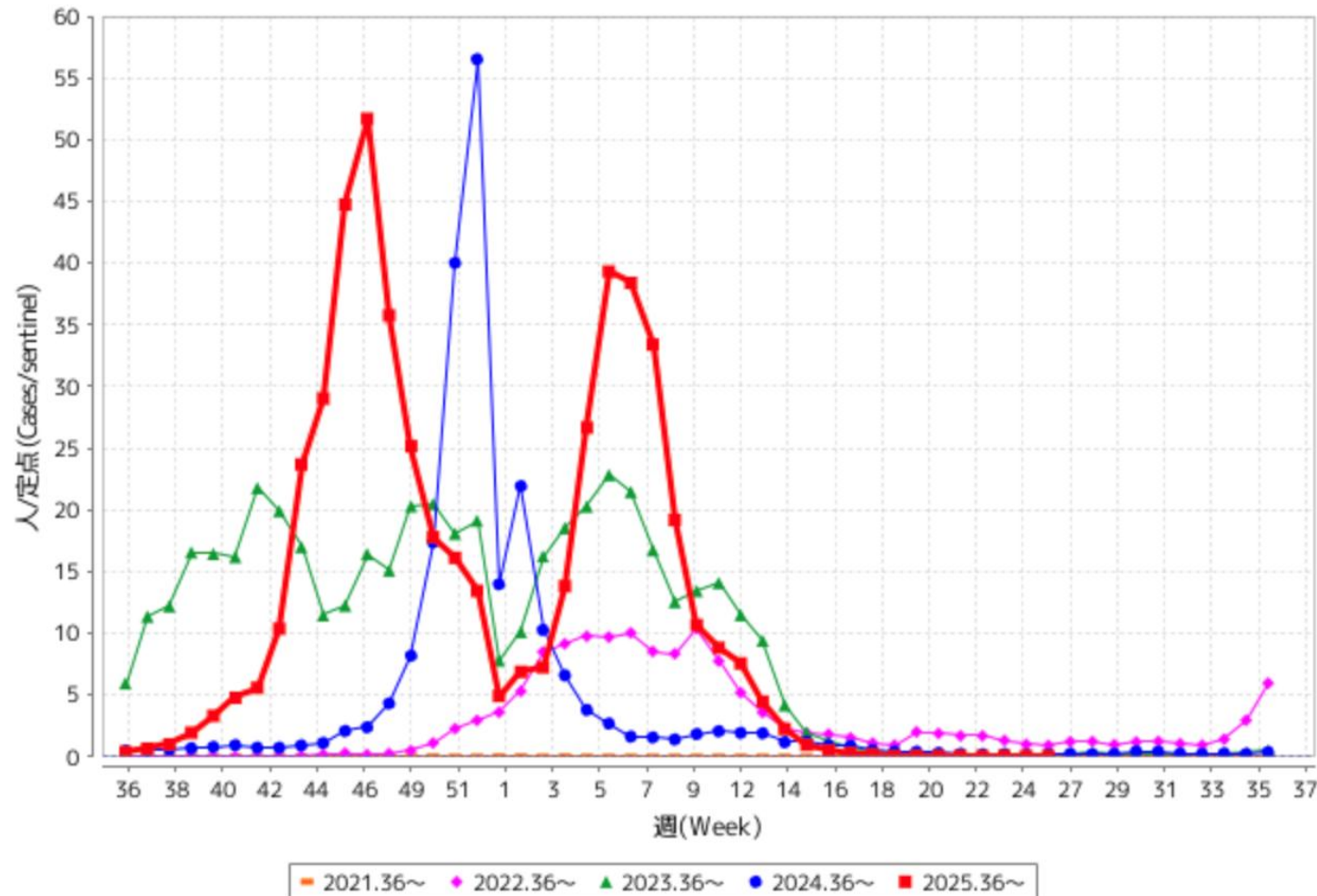
- 昨シーズン(2025/2026)は11月と2月にインフルエンザウイルス感染症のピークがあった
- 保育園、幼稚園、小学校でインフルエンザ感染症が流行し、学級閉鎖等が相次いだ
- 流行の背景には、感染症予防策（手洗い・マスクなど）の意識の希薄化が可能性として考えられる
- 予防策の1つとして、接種可能なインフルエンザワクチンの選択肢が増えている



公益社団法人
東京都医師会

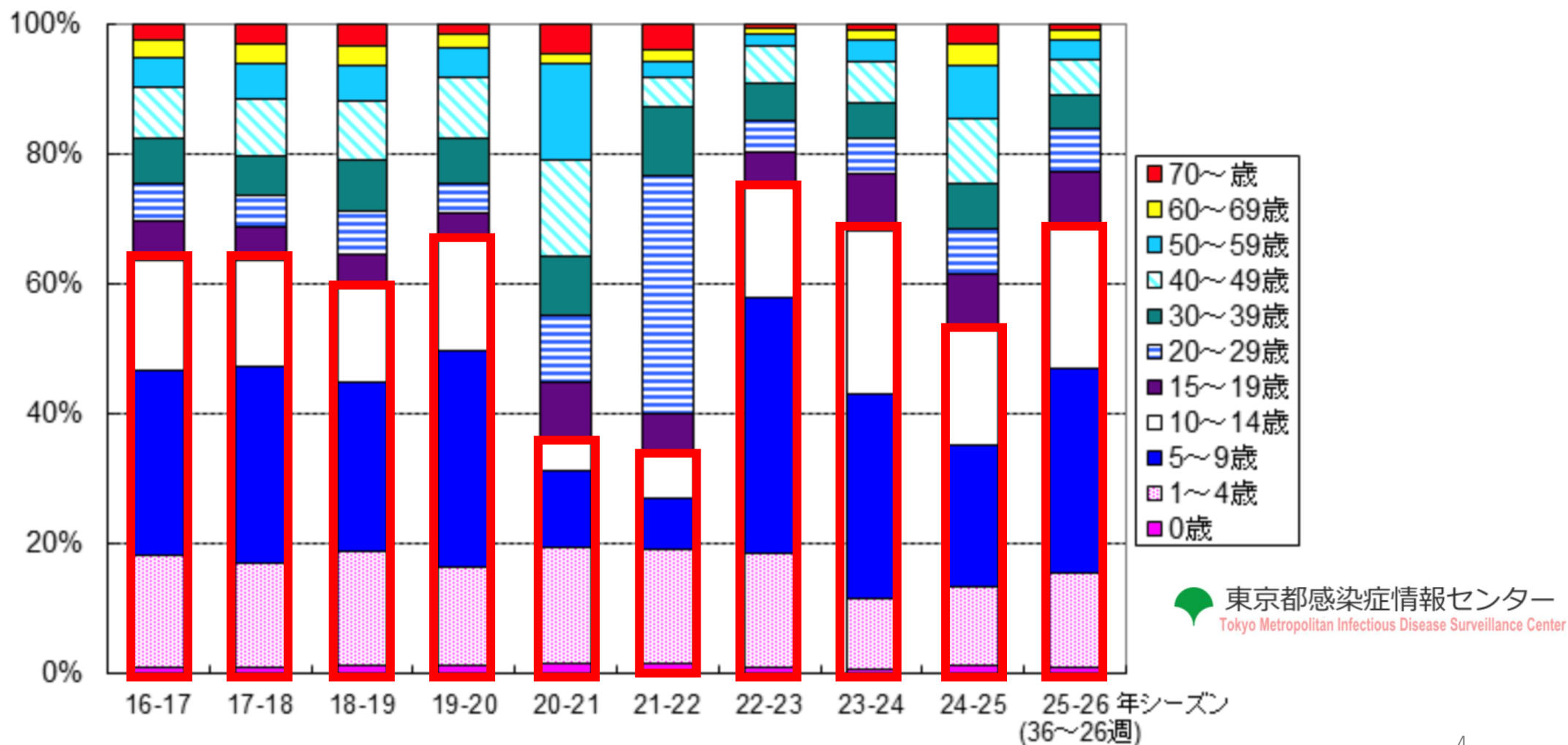
定点医療機関あたり患者報告数（東京都）

2026年6月28日（第26週）まで

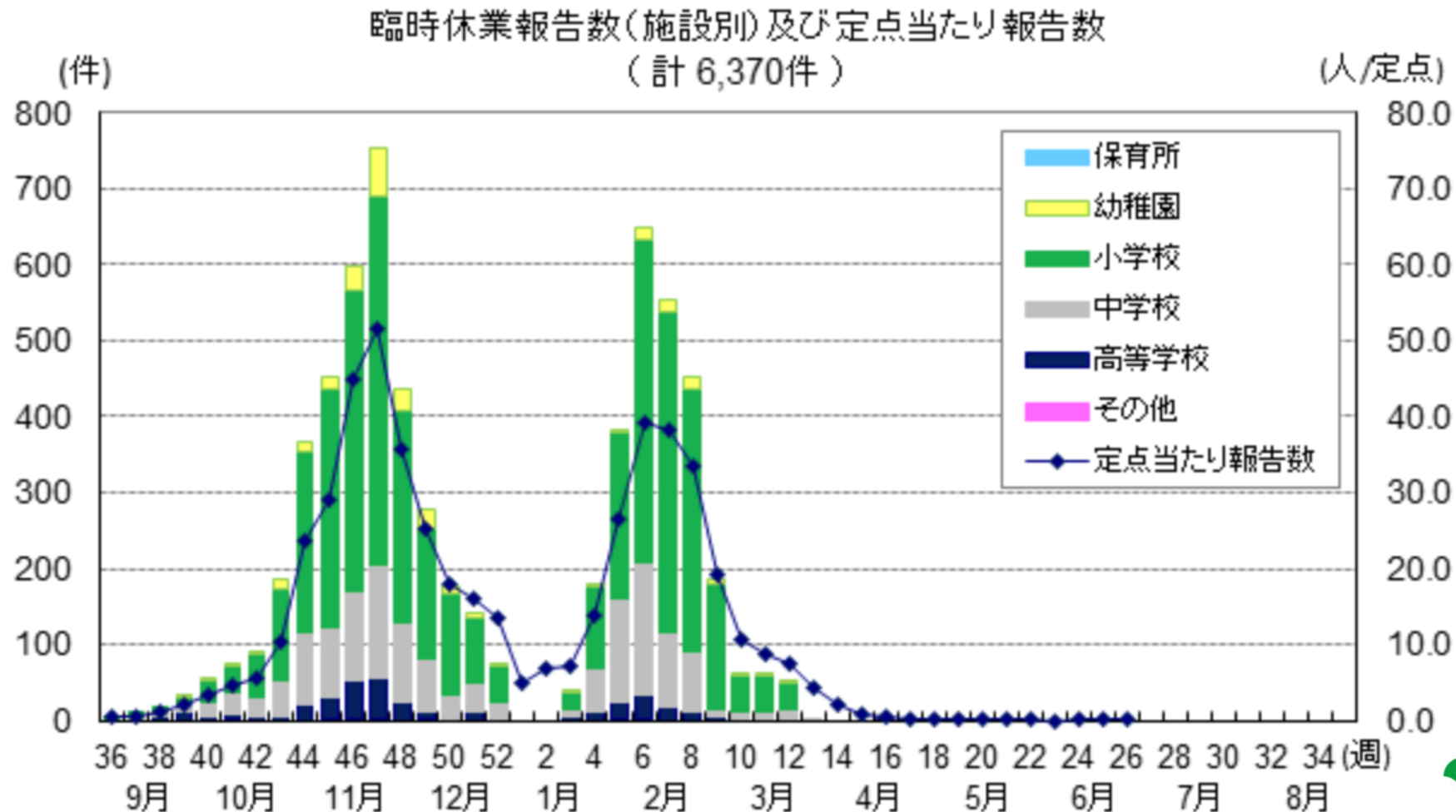


インフルエンザ患者の年齢構成

過去10シーズンの年齢階級別患者報告割合の推移（2026年6月まで）

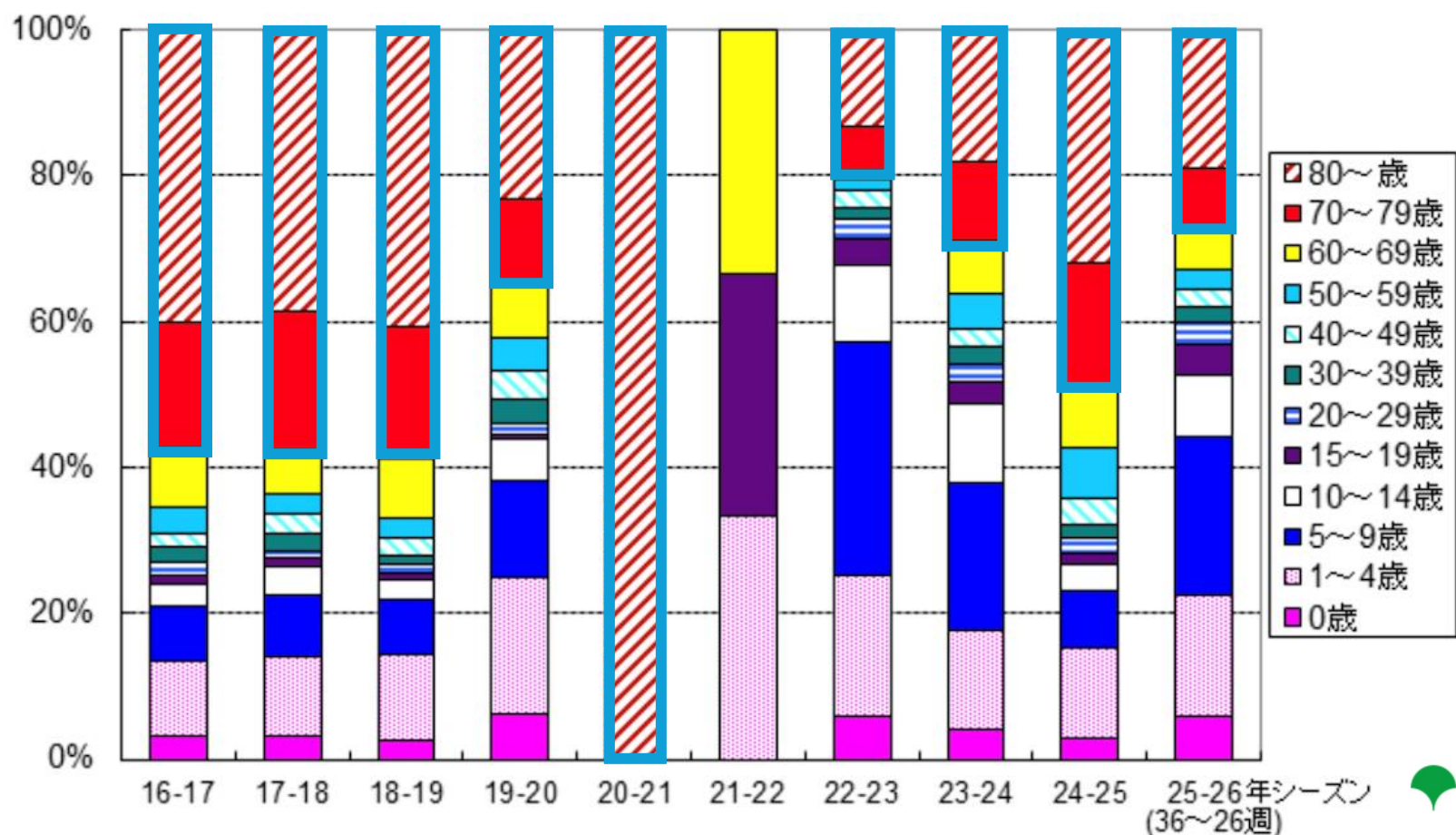


都内学校等におけるインフルエンザ様疾患による 臨時休業の状況

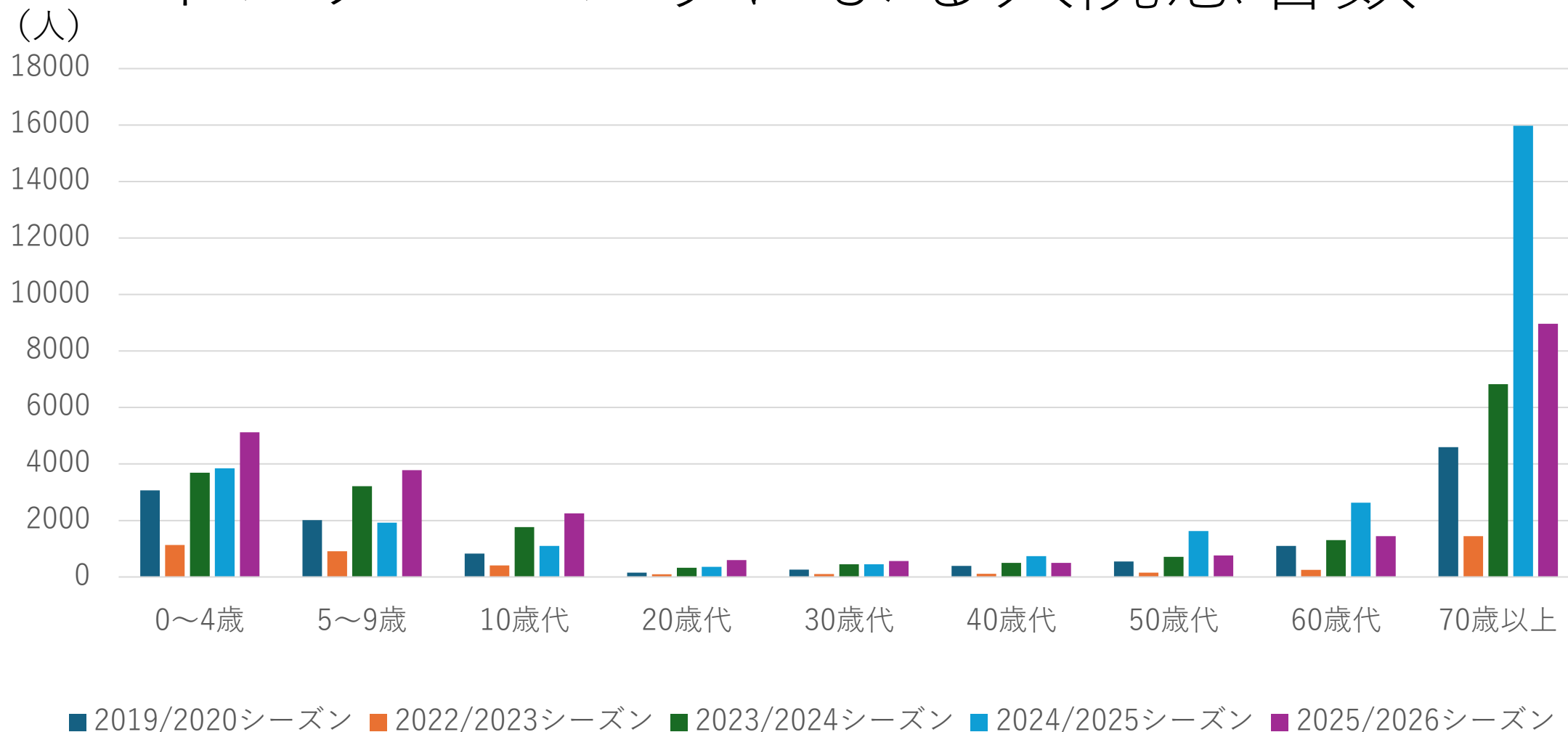


年齢階級別報告数

過去10シーズンの年齢階級別入院患者報告割合の推移
(2026年第26週まで)



インフルエンザによる入院患者数



厚生労働省「インフルエンザの発生状況について」
2026年5月7日発表（第17週までのデータ）から作図

小児のインフルエンザ感染症の対策

- マスクを着用し、感染予防策を
- 流水での手洗いを習慣づけましょう
- 基本的な生活習慣（睡眠時間をしっかりと取る、十分にバランスの良い食事をする）を心がけましょう
- 予防接種を検討しましょう
（注射型と点鼻型）

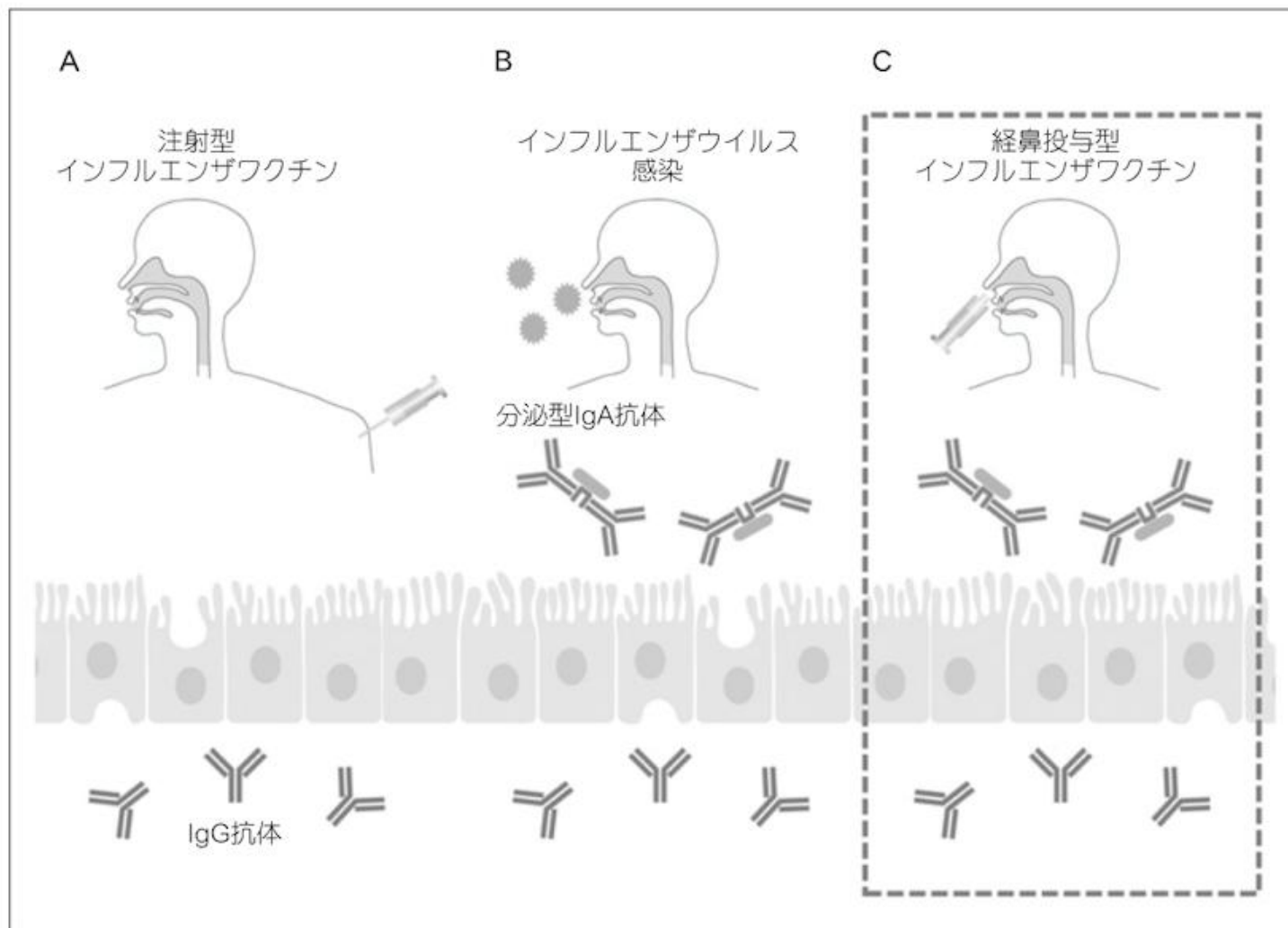


経鼻弱毒生インフルエンザワクチン(live attenuated influenza vaccine: LAIV)について



- 小児にとって、**ワクチンに伴う痛みは重大な懸念事項**であり、経鼻接種による痛みの軽減には重要な意義がある。国内においては、2023年3月27日に LAIV（商品名：フルミスト®点鼻液）の製造販売承認がなされ、実際の接種が2024/25シーズンから開始された。
- 接種対象者は、2歳～19歳未満で、0.2 mLを1回（左右の鼻腔内に0.1 mLを1噴霧ずつ、合計2噴霧）投与する。
- 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会の推奨
 - * 不活化インフルエンザHAワクチン (inactivated influenza vaccine: IIV) とLAIVの間にインフルエンザ罹患予防効果に対する明確な優位性は確認されていない。

感染と注射型ワクチンと点鼻型ワクチン



抗インフルエンザ薬による予防投与に関する考え方

- インフルエンザの予防については、あくまでもワクチン接種やマスク着用・手洗いなどの対策が基本である。抗インフルエンザ薬による予防投与については、病院内における集団発生やインフルエンザ重症化リスクのある基礎疾患のある患者が曝露を受けた状況においてのみ考慮される。やむを得ず使用する場合は、原則としてノイラミニダーゼ阻害薬を使用する。バロキサビルの使用はノイラミニダーゼ阻害薬耐性株が疑われる状況に限定される。

まとめ

- ヘルスリテラシーを高め、感染症予防策を再確認し、家族や周囲の方々を守る行動を取ろう
- インフルエンザ感染症について、かからないための予防、感染拡大させないための対応、重症化予防を、正しく知ろう



公益社団法人
東京都医師会